学校番号	301

令和５年度　地理歴史科

教科	地歴公民	科目	日本史Ｂ	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	日本史Ｂ（山川出版社）						
副教材等	新詳日本史（浜島書店）、日本史重要史料集（浜島書店） 要点整理ゼミナール日本史(浜島書店)						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

原始・古代から現代までを通して学習します。史料を使った学習も特徴の一つです。むやみに暗記するのではなく、さまざまに考えながら意味をとらえて、時代を把握することが重要です。また、過去を勉強するのは、現在をよりよく理解し未来を展望するためであることも忘れないで欲しいと思います。

２　学習の到達目標

１．古代から現代までの我が国の歴史の展開を地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察し，わが国の伝統と文化についての認識を深める。
２．歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	歴史的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責任を果たそうとする。	歴史的事象から課題を見いだし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	歴史的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	レポート課題 討論・発表 振返り	定期テスト （論述問題）	定期テスト （史料の読取り）	定期テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
前期	原始・古代の日本と東アジア	原始社会、ヤマト政権、律令に基づく古代国家の成立と移り変わりおよび文化の形成、院政期から武家政権の成立（鎌倉幕府）にいたる貴族社会から武家社会の変化と文化の展開について、東アジア世界の動きと関連づける。	○	○	○	○	a:古代国家の成立から武家政権の時代まで、意欲的に学んでいる。 b: 律令国家の成立、変遷過程と武家政権成立と発展への変遷について、課題を見いだして、多面的多角的に考察している。 c: 諸史料が活用できている。 d: 知識を身につけている。	レポート課題 討論・発表 定期テスト ノート提出 振り返り
	中世の日本と東アジア	武家政権の確立（室町時代）から近世社会（幕藩体制）が成立する過程、外交等について学習する。。幕政の諸改革・18 世紀末以降の鎖国体制の動揺について学習し、世界史の流れの中でわが国の歴史を理解させる。また、室町～江戸期の文化についても理解を深める。	○	○	○	○	a: 近世社会の成立や文化について、意欲的に学んでいる。 b:近世社会の成立・外交・文化について、課題を見いだして、多面的多角的に考察している。 c: 諸史料が活用できている。 d: 知識を身につけている。	定期テスト ノート提出 振り返り
後期	近世の日本と世界・近代日本の形成と世界	幕末の動乱から明治時代の幕開け、立憲国家成立と日清・日露戦争・韓国併合までを学習し、近代国家としてのわが国の歴史を世界とのかかわりの中で理解させる。社会・文化の変化に着目して、我が国の近代国家の形成について理解させる。	○	○	○	○	a:近代国家日本の成立と発展について、意欲的に学んでいる。 b:近代国家日本の成立と発展について、課題を見いだして、多面的多角的に考察している。 c: 諸史料が活用できている。 d: 知識を身につけている。	振り返り 定期テスト ノート提出
	両世界大戦期の日本と世界・現代の日本と世界	大正時代から太平洋戦争までの経過について、内外情勢の変化を理解させる。第二次世界大戦後の民主化と復興，国際社会への復帰，経済発展と現代の日本について，世界の動向と関連づけて考察させるとともに，我が国の課題と役割について認識させる。	○	○	○	○	a: 20 世紀の日本について、意欲的に学んでいる。 b: 20 世紀の日本について、課題を見いだして、多面的多角的に考察している。 c: 諸史料が活用できている。 d: 知識を身につけている。	振り返り 定期テスト ノート提出

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。